

1 単元 君待つと——万葉・古今・新古今

2 単元の目標

国語への 関心・意欲・態度	○ 進んで音読しながら、古典に親しもうとする。 ○ さまざまな和歌に関心をもち、古人の心情や人物像、情景や歴史的 背景について想像しようとする。
読む能力	○ 表現技法や、語句の使い方に注意しながら読み味わうことができる。 ○ 和歌やそれに関する文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人 間、社会などについて、自分の意見をもつことができる。
言語についての 知識・理解・技能	○ 歴史的背景などに注意して和歌を読むことを通して、その世界に親 しむことができる。 ○ 和歌の一節を引用して使うことができる。

3 新聞活用の視点(NIEとの関連)

本単元では、日本三大和歌集である万葉集、古今和歌集、新古今和歌を音読したり、情景や作者の心情を読み取ったりする活動を通して、和歌に対するイメージを膨らませ、その世界に親しむ態度や人間、社会などについて自分の考えをもつ力を養うことをねらいとしている。これは、中学校学習指導要領解説国語「知識及び技能(3)」にも「歴史的背景などに注意して、古典を読むことを通して、その世界に親しむこと」と示されている。これらの態度、力を養うためには、その時代の生活や価値観に触れさせ、現代や自らの共通点や相違点などを感じることを通して、その世界に親しませることが必要となる。

そこで、朝日新聞の「子ども万葉塾」という連載記事を用いる。「子ども万葉塾」の記事は、一つの和歌について、国文学者である中西進さんの解説が載っているものである。その解説は、柔らかい表現で、難解な語句が少なく、歴史的背景なども書かれており、和歌に対する生徒の深い理解を助ける資料として最適と考えた。この記事を読み、教科書には載せられていない知識や中西進さんの感性や視点を通して、和歌の世界に親しませたい。また、連載記事の中でも、大伴家持について書かれた記事を4つ用いる。大伴家持は、万葉集を語る上では必要不可欠な人物であり、またその和歌には、恋愛、自然、行事、家族など様々なジャンルがあるからである。それぞれのジャンルから読み取れる違った視点からの人物像から浮かび上がるものを一人ひとりに捉えさせたい。この記事は小さなスペースだからこそその良さがあると考え。限定された文字数の中には、筆者の解釈や和歌への思いが凝縮されている。解説書などの厚いページ数にはない読みやすさと簡潔さは、生徒にとっては親しみの湧くものであると考えた。

本単元における新聞活用の場面を、主に以下の場面に設定した。これは、本単元において子どもの思考を広げ、整理する活動において効果的であると考えたからである。

- 心に響いた和歌から人物像を考える場面(第1次)
和歌の意味をとらえさせ根拠をもって人物像を読み取らせるために、和歌とそれについての解説が載っている新聞記事を読ませる。
- 同じ和歌を選んだ人との交流をする場面(第2次)
自分の考えを、根拠をもって説明させるため、また、ほかの人の意見を比較するための資料として、根拠となる部分に線を引きながら新聞記事の内容をさらに深く読み取らせる。
- 人物像から、和歌を読み取る方のコツを理解する場面
和歌の読み取り方のコツを理解させるために、新聞記事の線を引いた箇所から班の意見をまとめさせる。

4 単元計画（5時間）

主な学習活動・内容	○指導・支援上の留意点 ◎新聞活用の視点をふまえた手だて	【観点】評価規準（評価方法）
<p>1 和歌を声に出して読み、心に響いた和歌を選ぶ。①</p> <p>(1) 朝自習で取り扱った4首を声に出して読む。</p> <p>(2) 朝自習で取り扱った和歌の鑑賞文が書かれている新聞記事から、心に響いた一首を選ぶ。</p> <p>(3) 選んだ和歌や鑑賞文から、読み取れた作者の人物像を考える。</p> <p>2 選んだ和歌から作者の人物像を読み取る。①</p> <p>(1) 読み取れた人物像について、自分の考えをまとめる。</p> <p>(2) 同じ和歌を選んだ4人でグループをつくり、和歌から読み取れる作者の人物像を交流させる。</p> <p>(3) 班での話し合いを受けて、自分の考えに加筆修正する。</p>	<p>○ 和歌特有のリズムや言葉の響きを味わわせるために、何度も音読させる。</p> <p>◎ 正しく音読ができるように、教師の範読を追い読みさせる。</p> <p>◎ このあとの学習に興味・関心をもたせるために、自分が共感できた、感動した、気になった(=心に響いた)和歌を選ばせる。</p> <p>◎ 鑑賞文を理解しやすくするために、難解な語句には注をつける。</p> <p>○ 根拠が明確に分かるように、根拠となる語句に線を引かせる。</p> <p>○ 話し合いの目的を明確にするために、最初に視点を提示する。</p> <p>○ 話し合いがスムーズに進むように、進行台本を準備する。</p> <p>○ 自分の考えの変化を振り返ることができるようにするために、加筆修正部分は色を変えさせる。</p>	<p>【関】進んで音読しながら、和歌に親しもうとする。 (行動分析)</p> <p>【関】心に響いた和歌を読み、古人の心情や人物像、情景や歴史的背景について想像しようとしている。 (記録分析)</p> <p>【読】和歌やそれに関する文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見をもつことができる。 (記録分析)</p>
<p>3 大伴家持の人物像を考える活動を通して、和歌を読むときの着眼点を見つける。③</p> <p>(1) 前時の班で話し合ったことをもとに、着眼点を整理する。</p> <p>(2) 人物像をとらえるときの手がかりを全体で共有する。</p> <p>(3) 再度グループで話し合う。</p>	<p>◎ 読み取った人物像から、どこに着目したのかを整理させるために、根拠となった和歌や訳、解説文に注目させ抽象化させる。</p> <p>○ 主体的な話し合いとなるように、前に貼られている意見に対して質問をさせたり、同じ意見があれば補足説明させたりする。</p>	<p>【読】人物像を読み取ることを通して、和歌の読み味わい方を理解することができる。</p>

<p>4 教科書 pp139～144 掲載の和歌から心に響いた一首を選び、鑑賞文を書く。</p> <p>②</p> <p>(1) 教科書の和歌を声に出して音読する。</p> <p>(2) 現代語訳や、注などを参考にして、和歌の意味を読み取り、心に響いた一首を選ぶ</p> <p>(3) 選んだ和歌の表現上の特徴、作者の心情、人物像、情景、時代背景に着目し鑑賞文を書く。</p> <p>(4) 鑑賞文を読み合い、考えを広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい読み方を確認させるために、音読CDを活用する。 ○ このあとの学習に興味・関心をもたせるために、自分が共感できた、感動した、気になった(=心に響いた)和歌を選ばせる。 ○ p 1 4 5 「和歌の表現技法」を読ませ、自分の選んだ和歌の表現技法に着目させる。 ○ 深い読み取りができるように、前回学習した和歌を鑑賞する際の手がかりを想起させる。 ○ 情報を整理しながら書かせるために、「表現技法について」や「和歌からよみとれること(情景、心情)」や「自分が考えたこと(人物像、時代背景)」などの観点を示し、根拠をもって述べられるように指導する。 ○ 学習が進まない生徒に対しては、モデル文を効果的に活用する。 ○ 考えを広げさせるために、同じ和歌を選んだもの同士でグループを作り、共感したところや考えの相違点などを話し合わせる。 	<p>(記録分析)</p> <p>【読】表現技法や、語句の使い方 方に注意しながら読み味わうことができる。</p> <p>(記録分析)</p> <p>【言】和歌の一節を引用して鑑賞文を書くことができる。</p> <p>(記録分析)</p>
--	--	---

5 本 時 令和元年10月16日（水）第5校時 3年3組教室にて

(1) 主 眼

- 大伴家持の4首の和歌から人物像を読み取る活動を通して、和歌を深く読むためには、和歌のテーマ、作者の行動や心情、情景、使われている言葉などに着目することが必要であると見出すことができるようにする。

(2) 本時における新聞活用の視点

主眼を達成するために、本時では、人物像を読み取り、着眼点を見出す場面で、大伴家持の和歌と解説が書かれた4種類の新聞記事を活用する。和歌を深く読み取るための着眼点をより多く見出しやすくするために、その中から最も心に響いた和歌を選び、読み取れた人物像を班ごとに発表するだけでなく、ほかの和歌を読み取った班の意見を聞き、再度自分の選んだ和歌に立ち返らせ考えを再構築させる。

(3) 準 備

新聞記事、ワークシート、ホワイトボード、マジック、巨大付箋、ゆがわシート

(4) 過 程

学習活動・内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準（評価方法） ◎ 新聞活用の視点をふまえた手だて
<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 めあてと本時の流れを確認する</p> <p>(1) めあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 自分と違うグループとの交流を通して、和歌を読むときの着眼点を見つけよう。</p> </div> <p>(2) 本時の流れを確認する。</p> <p>①班での話し合い ②全体で交流 ③まとめ ④振り返り</p> <p>3 人物像を読み取ったときの着眼点を班で整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"> ・ 人物の行動 ・ 情景 ・ 和歌のテーマ ○ 班 </p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班での交流を通して考えた大伴家持の人物像を発表させることで、前時を想起し、本時とのつながりをもたせる。その際にはアクティブラーダー(a1)が司会を行う。 ○ 班で前時の意見を共有するために、前時に出た意見を班で確認し、巨大付箋に書き、黒板に貼らせる。 ○ 本時のゴールと授業の流れを明確にするために、a1に流れを説明させ、本時のゴールを示させる。 ◎ 読み取った人物像から、どこに着目したのかを整理させるために、根拠となった和歌や訳、解説文に注目させ抽象化させる。 ○ 班活動の流れとルールを周知するために、班活動に入る前にa1に班活動の流れとルールを説明させる。 ○ 意見が明確に示させるように、ホワイトボードには着眼点のみ記述させる。

予想される生徒の意見

恋愛の和歌からは、心に秘めた人と書いているので、なかなか打ち明けられず恥ずかしがり屋なのかと思った。また、一途に深く思っている様子か、純粋な人ということが読み取れた。このように人物の行動に着目するとよい。

行事の和歌からは宴会を開き楽しんでいる様子から、明るくよく笑う人で部下思いの人なのかなということが想像できた。このように人物の行動や情景に着目するとよい。

自然の和歌からは、作者は長い間雨ごいをし続けた人なので、気が長く、粘り強い人だなということが読み取れた。また越中の守と書かれていることから、貴族で身分の高い人だったということがわかる。人物の行動や言葉に着目するとよい。

日常の和歌では、平栄という僧を迎えて歓談の宴を催していることから、とても気さくで人との出会いを大切にしている人だなと思う。また、大げさな表現をしていることから、感性や想像力が豊かな人なのかなと考えた。このことから、表現の仕方に着目するとよい。

4 全体で交流する。

- 班ごとの意見を整理して発表できるように、「根拠」「人物像」「着眼点」の3つのポイントを踏まえて発表させる。
- 主体的な話し合いとなるように、前に貼られている意見に対して質問をさせたり、同じ意見があれば補足説明させたりする。

予想される生徒の気づき

- ・ ほとんどの和歌が、人物の行動に着目することで読み取れていることがわかる。
- ・ 表現の仕方という意見は日常の和歌から出ていますが、詳しく聞きたいです。
→ 人を引き留めるために「焼太刀」という言葉を使っていたり、「守部」を派遣するなど大げさな表現をしていたりすることがわかるので、表現の仕方に着目することも大切だと考えました。
- ・ 情景に着目しても読み取れると思います。どのような情景を描いているかでどのような人物かがわかると思うからです。楽しい雰囲気を描いている和歌が多いような気がするので、どの和歌からも前向きな人物像が読み取れます。

5 本時のまとめを行う。

まとめ

和歌を読むときには、和歌のテーマ、人物の行動や心情、情景、使われている言葉、表現の仕方に着目することが大切である。

- 考えを広げさせるために、それぞれの班で違った着眼点で新たな人物像が発見できないか考えさせる。もし、発見できたのならば、巨大付箋に書き、黒板に貼らせる。
- 相手意識をもたせるために、小学生にコツを教えるという課題を与えまとめを書かせる。
- 本時の学習の重要点を押さえるために、個でまとめさせる。その後、何人かに発表させ、全体のまとめを行う。

6 振り返りを行う。

予想される生徒の振り返り

- ・ 和歌を読み取る際には、作者の心情や言動だけでなく、表現の仕方やテーマなどからも読み取れることがわかりました。
- ・ ○班の意見で、自分の考えにはなかった「使われている言葉」に着目するということが知れました。
- ・ 今日理解できた着眼点を活かして、ほかの和歌も深く読み取りたいと思った。